

読み取った内容を可視化し、伝え合うことを通して、 読みを広げたり深めたりする授業

坂井 昭彦

1 単元・教材名

様々な役割で複数の文章を読もう 「変わる動物園」学校図書（中学校国語1年）

2 目標

- 読み取った内容を可視化し、伝え合うことを通して、目的に応じて必要な情報に着目して要旨をとらえたり、場面と場面、場面と描写、自分の体験や経験などと描写を関連付けたりして、筆者の主張をとらえ自分の考えを説明することができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○ 複数の情報について、比較や関連付けなどを行い、情報の整理の仕方や引用の仕方などについて理解することができる。○ 動物園の展示方法などについて理解することができる。	<ul style="list-style-type: none">○ 目的に応じて必要な情報に着目して要旨をとらえたり、場面と場面、場面と描写、自分の体験や経験などと描写を関連付けたりして、筆者の主張をとらえ自分の考えを説明することができる。	<ul style="list-style-type: none">○ 複数の役割から文章を読むことの有用性を実感し、それらを読書活動に活かそうとする。

4 本単元を学習する意義

本単元において、目的に応じて必要な情報に着目して要旨をとらえたり、場面と場面、場面と描写、自分の体験や経験などと描写を関連付けたりして、筆者の主張をとらえ自分の考えを説明することが重要である。そして、このことは、新学習指導要領で求められている資質・能力の一つである。

本単元の教材文は、動物園の展示の変化を解説しながら、人間と動物とのかかわりについて論じている。

文章構造は、「動物の生息環境を知る」「動物の立場に立って」「人間と動物の関係を考える生態的展示」という小見出しをつけて、「生態的展示の歴史」「生態的展示による観客の意識や態度の変化」「生態的展示の実際」「アメリカや日本の動物園の例」などを踏まえて、これまでの展示と生態的展示を対比しながら、生態的展示による動物園の可能性について迫る内容となっている。

生徒は、文章中の言葉に着目して情報レベルでそれらの言葉を紡いで筆者の主張をとらえるにとどまっているため、実感して具体的に説明することはできない。例えば、「生態的展示はどのような展示方法ですか」と問われても情報レベルでとらえているだけで具体的に想像がつかないために説明することができない。さらに、文章を読み進める中で、言葉レベルや内容レベルの疑問をもつこととなる。

そこで、様々な読みの役割を基に文章を読ませ、考えたことをワークシートにまとめさせ各自の読みを共有する活動を組織する。なお、様々な読みの役割について、1学期は、文学的文章のため、「コネクター」「クエスチョナー」「イラストレーター」「リサーチャー」であったが、本単元は、説明的文章のため「コネクター・プレディクター（推測）」「クエスチョナー」「リサーチャー」「サマライザー（要約）（本単元では「要旨」とする）」などの役割とする。

このようにすることで、これまでの自分の体験や経験と他者の読みとを関連付けたり、疑問の解について考えたりしながら読むこととなる。なお、疑問については、より文章を読み深めるための疑問をグループや全体で検討する（練り上げる）。この疑問を「問い」として、問いに対する考えを追求する。さらに、生徒が立てると考えられる「動物園の展示方法にはどのようなものがあるのか」という問いに対する考えを追求する中で、インターネットなどで展示方法を調べる。このような過程を通して、例えば、先に挙げた生態的展示については、自分の体験や経験、展示方法について調べてわかったこと、文章に書かれている内容などと自分の考えを関連付けることとなり、情報レベルだったものが具体的に実感をもってとらえるようになる。

上記により、生徒は、資料などの要旨をとらえたり、場面と場面、場面と描写や自分の体験や経験などと他者の読みや描写を関連付けたり、複数の情報と比較・整理したりして、文章中に書かれた内容や筆者の主張を踏まえながら自分の考えを説明する。したがって、このような資質・能力を育成する上で大変意義がある。

5 本単元における手だて

<手だてア>

1学期の学習や日常の読書活動を想起させ、読みの役割を共有した上で、目的に応じて文章を読む役割を設定して、小グループで内容を解釈していく活動を組織する。

説明的文章を読む際に、要旨をとらえたり、場面と場面、場面と描写や自分の体験や経験などと描写を関連付けたり、複数の情報と比較したりして、内容を解釈するという資質・能力を発揮させるために行う。

最初に、動物園と聞いて思い浮かぶことをまとめさせてペアや全体で共有させる。生徒は、これまでの自身の体験などを想起してまとめ、共有することで「動物園」についてのイメージを具体的に膨らませることとなる。さらに、「変わる動物園」という題名からどんなことが思い浮かぶかを質問して共有することで、文章を読む目的意識を醸成する。その後、教材文を全読させて、感想や疑問をまとめさせる。

この働き掛けによって、生徒は「筆者はこの文章を通してどんなことを読者に伝えたいのか」「なぜ動物園は変わるのか」「動物園はどのように変わるべきか」「創造的な生態的展示とは何か」「人間と動物のさまざまな関係とは何か」などの疑問を挙げると予想される。その後、これらの疑問を全体で共有する中で「なぜ動物園は変わるのか」「動物園はどのように変わるべきか」「創造的な生態的展示とは何か」などの問いに対する考えについて自分なりに考えていきたいという目的意識が醸成され、次のような課題を見いだす。

<本題材における課題>

動物園はどのように変わるべきか

そこで、1学期の学習や日常の読書活動を想起させ読みの役割を共有した上で「コネクター・プレディクター」「クエスチョナー」「リサーチャー」「サマライザー」を基に文章を読ませて、それぞれの役割で分かったことなどをグループで交流させる。

<手だてイ>

「変わる動物園」に関連した複数の資料を、役割に沿って読み、考えたことや問いに対する考えなどを説明したり、検討したりする活動を組織する。

複数の情報について、比較や関連付けを行ったり、目的に応じて必要な情報に着目して読みを広げたり深めたりしながら内容を解釈するという資質・能力を発揮させるために行う。

「変わる動物園」の初読で挙げた「筆者はこの文章を通してどんなことを読者に伝えたいのか」「なぜ動物園は変わるのか」「動物園はどのように変わるべきか」「創造的な生態的展示とは何か」「人間と動物のさまざまな関係とは何か」などの問いに対する考えを追求する中で、生徒に「この文章を読むだけで、これらの問いに対する考えをまとめることはできますか」「なぜ動物園は変わらないといけないのですか」などと問う。この時、生徒は「変わる動物園」の文章だけでは、言葉や情報レベルの取り出しのみで、言葉としては理解してもその言葉の意味や背景などを具体的にイメージすることができない。そのため、問いに対する考えをまとめることに限界があることに気付く。そこで、「実は筆者が書いたこのほかの文章や動物園の展示に関する資料を用意しました」と伝え、言葉の意味や背景、展示方法やその種類など、具体的な内容が書かれた資料を提示する。

この働き掛けにより、先に挙げた自分たちの問いに対する考えを追求するために、新たな文章を読みたいという目的意識を醸成することとなる。

資料は、全4部からなり、「変わる動物園」の筆者の他の書籍である「動物園革命」の一部や「動物園革命」に関連して、「〈旭山動物園〉革命一夢を実現した復活プロジェクト」（小菅正夫）の一部を用意する。これらの文章について、グループ（3・4人）の中で役割を交代しながら（すべての役割を経験する）読み、分かったことや問いに対する考えなどを、説明したり、検討したりする活動を組織する。

最初は、同じ役割からなるグループを意図的に編成して、そのグループで分かったことや問いに対する考えなどを交流させる。この活動を行うことにより、同じ役割であってもとらえ方、調べ方、解釈の仕方の違いを実感させることにつながり、根拠を基に説明したり、検討したりする活動において、読みの広がりや深まりを実感する。なお、役割読みからわかったことや考えたことを説明させたり、問いに対する考えについて検討させたりする際、「坂井国語教室『交流・対話』のポイント」（プリント）を基に感想や追加質問を行うように促す。

次に、学習グループでまとめたことを発表する。この際も感想や追加質問を行うように促す。その中で、同じ文章や資料においても複数の役割から内容をとらえることにつながり、それぞれの役割からわかった情報を整理したり、紡いだりする。同時に生徒は、根拠や既存の知識、自分の体験や経験と他者の読みや描写とを関連付けながら内容を自分なり

に解釈する。

＜手だてウ＞

「動物園はどのように変わるべきか」という問いを提示する。

単元を通して見いだしたことを紡いだり、自分の体験や経験などと他者の読みや描写とを関連付けて、内容を解釈、整理したりするという資質・能力を発揮させるために行う。

「動物園はどのように変わるべきか」について、考えをまとめる際に、これまでのワークシートを俯瞰できる模造紙（可視化シート）を活用する。この可視化シートを活用することを通して、これまでの文章の要旨、調べたこと、場面と場面、問いとその考え、自分の体験や経験、展示方法を比較したり、関連付けたりして自分なりの解釈を踏まえながら、「動物園はどのように変わるべきか」についての自分なりの考えをまとめる。

その後、「動物園はどのように変わるべきか」についての考えを小グループで交流する活動を組織する。その際、感想や追加質問を行うように促す。特に、資料にある二人の筆者の主張の微妙な違いに気付くように追加質問を行いながら揺さぶりをかける。この中で、自身がわかったつもりでいたことについて、具体的に説明ができなかったり、他者の考えに触れることで、新しい気付きがあったりする。この過程を通して、生徒はもう一度、可視化シートにあるこれまでのワークシートの内容を振り返る。

さらに、「動物園はどのように変わるべきか」についての考えを個人でまとめる活動を組織する。こうすることで、再度、これまでの文章の要旨、調べたこと、伝え合った内容、場面と場面、問いとその考え、他者から得た新たな気付き、自分の体験や経験、生態的展示、形態的展示、行動展示を比較したり、関連付けたりして自分なりの解釈を踏まえながら、具体的に実感をもって考えをまとめる。

この姿こそ、資質・能力を発揮し、再構成した姿である。

＜参考文献＞

- ・ 新潟大学教育学部「読書指導カスタンダードに基づく読書指導教員研修プログラムの開発」平成23年度独立行政法人教員研修センター，教員研修モデルカリキュラム開発プログラム報告書，2012
- ・ 山元隆春・居川あゆ子「リテラチャー・サークルによる読書活動の開拓ー中学校国語科の場合ー」『学校教育実践学研究』2013，第19巻，89～99頁
- ・ 足立幸子「初読の過程をふまえた読書指導ーハーベイ・ダニエルズ『リテラチャー・サークル』の手法を用いてー」『新潟大学教育学部研究紀要』2013受理，第6巻，第1号
- ・ ジェニ・ポラック・デイ，ディキシー・リー・シュピーゲル，ジャネット・マクレラン，ヴァレリー・B・ブラウン（著），山元隆春（訳）『リテラチャー・サークル実践入門』，溪水社，2014
- ・ 長谷川聡実 2013 新潟大学教育学部附属新潟中学校 研究紀要第56集 p26～41
- ・ Lori D. Oczkus 『Reciprocal Teaching at Work』 Reading Associat 2010
- ・ 若生謙二 『動物園革命』，岩波書店，2010
- ・ 小菅正夫『〈旭山動物園〉革命ー夢を実現した復活プロジェクト』，角川書店，2008

6 本単元における構想 (全8時間 本時 7/8)

目	生徒の意識	学習活動・内容	教師の支援・指導	評価の観点 評価の方法
的 意 識 こ れ か ら の 動 物 園 は ど う あ る べ き か い ろ い ろ な 考 え 方 が あ る な	「動物園」と聞いて思い浮かぶことは何か いろんな動物園があるな 「変わる動物園」とはどういう動物園かな 「生態的展示」とは何か	① 「動物園」と聞いて思う浮かぶことを挙げる。 ② 思い浮かんだことをペアで交流したり、全体で共有したりする。 ③ いろいろな動物園を知る。 ④ 「変わる動物園」という題名を聞いて思い浮かぶことをまとめる。 ⑤ 「変わる動物園」を読んで気付いたことや疑問を教科書に書き込む。さらに、感想や疑問をワークシートにまとめる。 ⑥ 疑問点を全体で共有する。	○ 「動物園」と聞いて思い浮かぶことを挙げさせる。 ○ 思い浮かんだことをペアで交流させる。 ○ 思い浮かんだことを発表させる。 ○ 動画や画像を活用して「上野動物園」「天王寺動物園」「旭山動物園」を紹介する。 ○ 「変わる動物園」という題名を聞いて思い浮かぶことをワークシートにまとめさせる。 ○ 「変わる動物園」を読んで気付いたことや疑問を教科書に書き込ませる。さらに、感想や疑問をワークシートにまとめさせる。 ○ 疑問点を発表させる。	【思判表】 ワークシート
	<本単元における課題> 動物園はどのように変わるべきか	○ 「動物園はどのように変わるべきか」について自分の考えをまとめさせる。	【思判表】 ワークシート	
	「コネクター」「クエスショナー」「イラストレーター」「リサーチャー」のほかにもいろんな役割があるな	⑦ 「動物園はどのように変わるべきか」について自分の考えをまとめる。 ⑧ 1学期に学習したことを想起させて読みの役割を決定する。 ・ 「コネクター・プレディクター」「クエスショナー」「リサーチャー」「サマライザー」	○ 「動物園はどのように変わるべきか」について自分の考えをまとめさせる。 ○ 「コネクター・プレディクター」「クエスショナー」「リサーチャー」「サマライザー」の役割を決定させる。 (手だてア)	【思判表】 ワークシート
	同じ役割でもいろんな読み取り方ができるし、いろんな調べ方があるな	⑨ 「変わる動物園」の全文を読んでワークシート(役割シート)に、考えたことを書き込む。 ⑩ 同じ役割のグループを編成して自分がまとめた内容を交流する。 ⑪ 役割に基づいて、学習グループ4人グループ内でまとめたことを発表する。	○ 全文を読んでワークシート(役割シート)に、考えたことを書き込ませる。 ○ 同じ役割のグループを編成して自分がまとめた内容を交流させる。 ○ 役割に基づいて、学習グループ4人グループ内でまとめたことを発表させる。	【思判表】 ワークシート 【知技】 ワークシート
	いろいろな考え方があ るな	⑫ 「動物園革命」「(旭山動物園)革命一夢を実現した復活プロジェクト」第1部から第4部までを⑨⑩⑪の手順で進める。 ⑬ 「動物園はどのように変わるべきか」について考えをワークシートにまとめる。	○ 「動物園革命」「(旭山動物園)革命一夢を実現した復活プロジェクト」第1部から第4部について役割読みを交代させて、わかったことなどをワークシートにまとめさせる。 (手だてイ) ○ 同じ役割のグループを編成して自分がまとめた内容を交流させる。 ○ 役割に基づいて、4人の学習グループ内でまとめたことを発表させる。 ○ 「動物園はどのように変わるべきか」ワークシートにまとめさせる。 (手だてウ)	【思判表】 ワークシート 【知技】 ワークシート
	いろいろな考え方があ るな	⑭ まとめたことをグループで交流する。 ⑮ 全体で共有する。 ⑯ 「動物園はどのように変わるべきか」について考えをワークシートにまとめる。	○ まとめたことをグループで交流させる。 ○ まとめたことを発表させる。 ○ 「動物園はどのように変わるべきか」について考えをワークシートにまとめさせる。	【思判表】 ワークシート
	いろいろな考え方があ るな	⑰ これまでの学びを振り返る。	○ これまでの学びを振り返らせる。	【主態】 プログラ スカー ド

7 本時の詳細

(1) 前時までの学習を終えた生徒の実態

- 「動物園はどのように変わるべきか」について考えをまとめている。
(学習活動⑦)
- 「コネクター・プレディクター」「クエスチョナー」「リサーチャー」「サマライザー」の役割を体験している。
(学習活動⑨⑩⑪⑫)
- それぞれの役割で考えたことや問いに対する考えなどをワークシートにまとめている。
(学習活動⑫)
- 資料の4部までを読んで、それぞれの役割で考えたことや問いに対する考えなどを同じ役割のグループや学習グループで説明したり、検討したりしている。(学習活動⑫)
- 「動物園はどのように変わるべきか」について自分の考えをワークシートにまとめている。
(学習活動⑬)
- 「動物園はどのように変わるべきか」について各グループ1・2名の生徒が発表を終えている。
(学習活動⑭)

(2) 本時のねらい

資料などから読み取った内容を可視化し、伝え合うことを通して、目的に応じて必要な情報に着目して要旨をとらえたり、場面と場面、場面と描写、自分の体験や経験などと他者の読みや描写を関連付けたりして、「動物園はどのように変わるべきか」についての考えを説明することができる。

(3) 評価基準

○ 評価の観点—思考・判断・表現

A	B
これまでの文章の要旨，調べたこと，伝え合った内容，場面と場面，他者から得た新たな気付き，自分の体験や経験，生態的展示，形態的展示，行動展示などを比較したり，関連付けたりして「動物園はどのように変わるべきか」についての考えを具体的に説明することができる。	これまでの文章の要旨，調べたこと，場面と場面，自分の体験や経験，展示方法などを比較したり，関連付けたりして「動物園はどのように変わるべきか」についての考えを説明することができる。

(4) 本時の展開

学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援・指導 ■ 評価の観点・方法
① 「動物園はどのように変わるべきか」について自分の考えを学習グループで交流する活動	<指示> まとめたことについて学習グループで交流しなさい。
【予想される交流の具体】 <p>A: 私は地球に共に暮らす動物の尊厳を守ったり、その動物の生活環境やあり方を考え直したりするためにも、動物園は生態的展示を積極的に取り入れるべきだと思います。</p> <p>そのように考えたのは、複数の具体的な事例が書かれた資料を読む中で、生態的展示の方がその動物にとって、本来の生活環境に迫ることができ、動物への負担が小さいということがわかったからです。確かに、行動展示という展示方法の方が動物の本来の動きを意図的に表出させる展示方法なので、人間からしてみれば動物の躍動的な瞬間を見ることができるのでいいのかもしれません。例えば、旭山動物園のオラウータンが空中を歩くという展示方法はまさに器用にロープの上を歩くオラウータンの能力を最大限に引き出すのに有効な行動展示です。しかし、動物の視点になったらどうでしょうか。おそらく、動物の視点に立ったならば人工的につくられた環境は住みにくいのではないのでしょうか。だからこそ、私は、動物園は生態的展示を積極的に取り入れるべきだと思います。</p> <p>B: 私は、これからの動物園は、行動展示を用いるべきだと考えます。理由は、生態的展示だと運が悪いと全く動かない動物を見ることになるからです。せっかく動物園に出かけても躍動した動物を見ることができなければつまらないと思います。確かに、生態的展示の方が、動物にとっては生活環境に近いためにいいのかもしれません。しかし、動物園の集客をあげるためには、観客の視点に立った展示方法も大切だと考えます。資料を読む中で、旭山動物園の過去の苦労について知りました。経営難の中で、小菅園長らが考案した展示方法。この展示方法が集客率を上げたのは事実です。何よりも、まずはお客さんに来てもらうことが重要です。その上で、動物のことや動物と人間とのかかわりを考えるサインを活用して、人間と動物との関係を考える取り組みが大切となるのだと考えます。お客さんが来ないのに、サインを立てても意味がないのではないのでしょうか。したがって、私はこれからの動物園は、行動展示を用いるべきだと考えます。</p> <p>C: 私も、これからの動物園は、行動展示を用いるべきだと考えます。理由はBさんと異なります。私の理由は動物園の面積です。生態的展示であるとしても広大な面積が必要です。確かに、天王寺動物園のように限られた面積の中で設計したり、様々な工夫ができたかと思うのですが、資料にあるように、サバンナの情景の奥には、鉄塔やビルが見えます。つまり、サバンナ的環境であって現実味に欠けるのです。そうすると、やっぱり広大な面積が必要なのです。国土が狭くて、山間部の多い日本において生態的展示は限界があり、むしろ、人工的に環境をつくり、且つ動物の能力を引き出すことができる行動展示の方がメリットは多いのではないかと考えます。だからこそ、私は、これからの動物園は、行動展示を用いるべきだと考えます。</p> <p>B: なるほど。僕には面積という視点がなかった。Cさんの動物園の面積という点からも行動展示の方がいいと思う。</p> <p>A: 2人は、行動展示がいいと言っているけど、若生さんは「変わる動物園」の中で、生態的展示を提案しているよね。なぜ、若生さんは行動展示ではなく、生態的展示を提案していると思う？</p>	

② ①で出た考えを全体で共有する

＜指示＞

グループで出された考えや話し合いの中で見いだした新たな問いやわかったことを発表しなさい。

- 意図的にさまざまな考えの生徒から発表してもらおう。

【予想される生徒の発言】

- ・ 私は、これからの動物園は、行動展示を用いるべきだと考えました。理由は、生態的展示だと運が悪いと全く動かない動物を見ることになるからです。せっかく動物園に出かけても躍動した動物を見ることができなければつまらないと思います。確かに、生態的展示の方が、動物にとっては生活環境に近いためにいいのかもしれません。しかし、動物園の集客をあげるためには、観客の視点に立った展示方法も大切だと考えます。資料を読む中で、旭山動物園の過去の苦勞について知りました。経営難の中で、小菅園長らが考案した展示方法。この展示方法が集客率を上げたのは事実です。何よりも、まずはお客さんが来てもらうことが重要です。その上で、動物のことや動物と人間とのかかわりを考えるサインを活用して、人間と動物との関係を考える取り組みが大切となるのだと考えます。お客さんが来ないのに、サインを立てても意味がないのではないのでしょうか。したがって、私はこれからの動物園は、行動展示を用いるべきだと考えます。
- ・ 私たちのグループでは、行動展示のほうがこれからの動物園には必要と考えている人が多かったのですが、話し合いの中で、若生さんは「変わる動物園」の中で、なぜ、若生さんは行動展示ではなく、生態的展示を提案しているのかという問いをもちました。
『動物園革命』の中で、若生さんは、幼いころ檻の中で、生活する動物を見てかわいそうだと考えていたこと。小学生の頃に出会った本の中で、動物の本来の環境に迫る状況をつくった動物園のことが紹介されており、若生さんは当時その本の内容に感銘を受けたこと。これらのことから若生さんは人間の視点ではなく動物の視点に立った展示方法を考えるようになったのではないかと推測します。したがって、本と出会い、動物の視点に立っているから若生さんは、生態的展示を提案しているのだと考えます。

③ 「動物園はどのように変わるべきか」について自分の考えをまとめる活動

- これまでの学びを紡ぎ、生徒が立てた問いについて自分の考えをまとめさせるために以下のような問いを提示する。

＜発問＞

動物園はどのように変わるべきと考えますか。最終的なあなたの考えをワークシートにまとめなさい。**(手だてウ)**

- 教科書や資料の描写、生徒自身が調べた情報などを根拠として具体的にとらえさせる。
- 可視化シート(これまでの学びのワークシート)を机上に用意させる。

- 評価の観点：思考・判断・表現
- 評価の方法：ワークシートの記述内容

【予想される生徒の記述】

私はこれからの動物園は、生態的展示を積極的に取り入れるべきだと考えます。

そのように考えたのは、複数の具体的な事例が書かれた資料を読む中で、生態的展示の方がその動物にとって、本来の生活環境に近く、動物への負担が小さいということがわかったからです。確かに、行動展示という展示方法の方が動物の本来の動きを意図的に表出させる展示方法なので、人間からしてみれば動物の躍動的な瞬間を見ることができるのでいいのかもしれません。例えば、旭山動物園のオラウータンが空中を歩くという展示方法はまさに器用にロープの上を歩くオラウータンの能力を最大限に引き出すのに有効な行動展示です。しかし、動物の視点になったらどうでしょうか。おそらく、動物の視点に立ったならば人工的につくられた環境は住みにくいのではないのでしょうか。だからこそ、私は、動物園は生態的展示を積極的に取り入れるべきだと思います。

他にも、生態的展示をするには広大な面積が必要になるかと考えられます。しかし、植樹の工夫や地下を有効に使うなどの工夫ができると思います。

私が以前行ったことがある動物園はコンクリートの中で動物が生活していました。それを見た時、その動物がかわいそうだと思ったことがあります。もしも、自分がコンクリートの部屋で1日中閉じこめられていたら、気が狂いそうになると思います。だからこそ、その動物の本来の環境の中で生活させるべきだと考えます。さまざまな動物園やその展示方法を学ぶ中で、自然のしくみや動物と私たち人間との関係やあり方について考えることになりました。人間の立場で考えるのか、動物の立場で考えるのかによっても展示方法は変わると思います。動物が活発にえさを求めて躍動する姿を見せたいならば行動展示がいいと思うし、その動物がもともと暮らしている環境を再現して人間はそのような環境をどのように維持させていくべきかなどを考えさせるためには生態的展示がいいと考えます。私は、人間と動物の関係に着目して、それぞれが尊重し合い生活できる環境を考えるきっかけとなる生態的展示がこれからの動物園には大切だと考えます。

だからこそ、動物園は生態的展示を積極的に取り入れるべきだと考えます。

④ 本時を振り返る活動

○ プログレスカードに本時の振り返りを記入する。

○ プログレスカードに授業の振り返りを記入させる。